





竹は燃えた後にガラス状の灰（クリンカー）が固着してかまを傷めやすく、竹を燃料とするボイラーは普及していない状況です。

ここのボイラーは、対策として 800℃で一時燃焼させる対策を採っており、5年間稼働しています。さらに、塩素やカリウムを除去するために、竹チップを水溶液で処理することも進めています。

近くにある「おふさ茶屋」です。



商用電源に頼らずクリーンな電力を自立できる、太陽光発電 4kW、小型風力発電、BDF（バイオディーゼル燃料）発電機、EV 蓄電池 12kWh、EV 普通充電設備を備えた「オフグリッドハウス」です。

（作成 岡本紘一）